

時の
話題



研究と教育の分離

矢口 新

大学は研究機関と教育機関との二つの性格をもっていることが当然のように考えられているが、果してそれは当然のことであろうか。たまたま歴史的にそうであったということにすぎないのではないか。そういうものを今日なお金科玉条として考えているところに問題がありはしないか。

ゲバ棒の学生が大学の自治などと主張して行きすぎた活動をするのは、研究者としてのなか、教育を受ける者としてのなか、それをゴツチャにして考えているのではないか。現代の大学の学生に、研究者としての位置を与え、研究の自治を与えるなどということは、時代錯誤もはなはだしいのである。現実を見ざるにも程があるというものであろう。研究者は研究を専門とするスペシャリストであるべきであって、現代の大学はそういう人々のつくっている集団ではない。それは

中世から近世初頭の大学の姿であって、その時代の産物なのである。いまの大学をそのままでの姿で考えるのは時代錯誤というべきであらう。

いまの大学は職業教育機関であるのだから、そういう専門の研究者になる人もおれば、そうでない人もいる。いろいろな人をふるいわけるとはその教育のあとの話であらう。大学はあくまで教育機関としておくべきものである。ソビエトなどはその形が最もはつきりしているが、アメリカでも、実質的にはそういう方向なのである。ヨーロッパの大学の伝統はそうではないのだが、それも次第に変貌をとげるのは近い将来ではないか。今度の紛争を機会に大学を二つにわけて、というより大学から研究期間を分離してしまつたらどうか。そして大学教授は教育者としての専門職になり、研究者として専門の人

は別においたらよい。もちろん現在の教授の中で研究者として働く方がよい人はうつつてもらつたらよい。そうしたら教育に熱心な大学教授も出てくるだろうし、大学の教育もすこしは体をなすのではないか。

紛争もここまできたら、大学をいじくりまわすより、いつそのこと、新しく研究機関をつくってしまう方がよいのではないか。つくばの全く新しい都市にでも、全く新しく設けて育てる方が、早道かも知れない。そうすれば大学もおのずから落ちつくところに落ちつくのではないか。

しかし新しい研究機関は、やはり研究に対しては自主性をもっていないか。それは自主性をもっていないか。そういうことが、どのような体制でできるのか、大学は歴史の伝統を背負ってなんとかに自治の上にあぐらをかいていた。それがかえって自滅の道をたどつたのである。治外法権によって墮落したのである。この際新しい研究者を集め、新しい研究機関をつくり、新しい研究の自主性のあり方をつくり直す努力をしたらどうだろう。

（能力開発工学センター常務理事）